

建設環境委員会記録

とき 令和7年10月23日

国分寺市議会

建設環境委員会

令和7年10月23日（木）

○ 出席委員

委員長	中山 ごう
副委員長	久保 けいこ
委員	脇村 たいき
	対馬 ふみあき
	寺嶋 たけし
	高瀬 かおる
	はせべ 豊子

○ 審査事項

1 調査 環境施策について

R7.6.5

《報告事項》

- (1) 令和7年度国分寺市機構改革検討委員会報告書について
- (2) その他

2 陳情第7-1号 「有機フッ素化合物（PFAS）の汚染原因究明と対策を求める意見書」を国へ提出することを求める陳情

R7.9.5

3 陳情第7-2号 ぶんバスのさらなる発展を求める陳情

R7.9.5

午前9時30分開会

○中山委員長 おはようございます。ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

冒頭、市長より、公務のため終日欠席する旨の届出がございましたので、御報告いたします。



○中山委員長 それでは、調査 環境施策についてを議題といたします。

担当より説明を求めます。

○坂本環境経営課長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

それでは、調査事項、環境施策についてとなります。資料1-1をお願いいたします。

さきの第3回定例会の建設環境委員会の調査事項で説明したとおり、第三次国分寺市環境基本計画の第6章、計画の推進に推進体制を記載しており、その中から環境ひろばについて報告するものです。資料中央の環境基本計画から抜粋したものは、環境ひろばの参加者延べ人数をまとめたものであり、記載のとおり、近年は各回10人前後の参加となっています。なお、現時点で、環境ひろば会員の名簿に記載があり、通知等を送付している対象人数は21人となっております。

資料1-2をお願いいたします。こちらは、環境ひろばの直近の1年間の参加者数を内訳とともに表したものです。令和6年度は環境基本計画の改定作業を行っており、令和6年10月から令和7年1月の間に、当日参加が1人ずつありました。令和7年度の6月の当日参加者4人については、ゼロカーボンに関しての事業所の取組を紹介するために参加した東京ガス株式会社の社員2人を含んでおります。なお、環境ひろばへの事業者の参加は、これが初めてと記憶してございます。

7月は市内在住のデザイナーさんを招いて、小学生を対象とした「デザイナーさんとえがこう！みんなに伝わる再エネでんき」のワークショップを行い、コマ撮りアニメを制作いたしました。8月は、株式会社NTT-MEを招いて、同じく小学生を対象とした「太陽の力で走らせよう！ソーラーカー作製ワークショップ」を行いました。6、7、8月は、従来の環境ひろばとは異なることを試みたため、参加者に変化が表れております。特に7月と8月は、子どもたちを対象としたため、子どもと付添いの大人の参加があり、合計で7月は25人、8月は36人となりました。しかしながら、7月、8月については、環境ひろば会員より、「これは環境ひろばではないのではないか」、「違和感を覚える」、「環境ひろばとイベントは別に開催すべきではないか」、という趣旨の声が出ており、環境ひろば会員と担当課の考え方に開きが出てきております。なお、7月、8月の意見交換の内容につきましては、次回の調査事項で報告を予定しております。

資料1-3をお願いいたします。こちらは、環境ひろばの開催に係る流れ、担当課の事務をまとめたものとなります。内容は、直近の9月から10月であり、10月19日の第3日曜日の開催に当たり、遡って10月8日に運営委員会を開催しており、それぞれ関連する議事要約作成、情報収集、資料作成、また、ひろばニュースの編集、印刷、配架作業があり、改めて書き出してみますと、事務量としてはなかなかのボリュームがあり、多いなという印象でございます。

説明は以上です。

○中山委員長 説明が終わりました。質疑のある方、挙手にてお願いいたします。

○はせば委員 おはようございます。今日もよろしくお願いいたします。

御説明ありがとうございました。まず、お聞きしたいところですが、今年度は7月、8月に、子ども向けにイベントを行ったという経過のお話も御説明いただきましたけれども、資料1-3のところ

いくと、開催に向けて、先ほど課長もおっしゃったようにちょっとボリュームがあるというのは、本当に今まで、熱心にこの事業に関わってくださった市民や担当課がしっかりと対応してくださったところが見られると思っています。

それで、今年の7月、8月のワークショップを行うに当たって、運営委員会との事前のやり取りを教えてくださいいただけますか。

○坂本環境経営課長 7月、8月、こちらを見越してでございますが、まず今年度、私が現職に着任して、考え方を運営委員会のほうにお伝えしております。市では、2050年のゼロカーボンシティを目指すとしております。一つの節目として、2030年というのを控えているような状況下で、この2030年が意外に年数がそんなになく、もう直近に迫っているという背景がございます。市の考えとしましては、ゼロカーボンに軸足を置いて進めていきたいという趣旨は、お伝えしているところでございます。

また、ゼロカーボンを進めるに当たって、より多くの方の関わりが必要という背景もございます。従前から、環境ひろばという場合は、大体同じような方が毎回10人前後来ているというところがございます。少し違った空気を流し込んでいきたいという考えがございました。

また、環境基本計画策定に当たっては、子どもたち、若年層の意識改革といいますか、若年層への働きかけが重要という背景もございましたので、このような考えを4月、5月とお伝えをいたしまして、手法等の調整もあり、あと、夏休みというのもございますので、7月、8月にこのようなイベントを併せて開催したという経過でございます。

○はせば委員 ありがとうございます。御説明を丁寧にさせていただいて、どういうふうにやり取りをしたかというのが理解できました。

そこで、今までと本当に違ってきているところを、今、御説明のようにゼロカーボンに向けてというところを軸に、きちんとお伝えしながら進めても、今までずっとやってきた環境ひろばの参加者の人からは、やり方にちょっと違和感があると感じているという報告も先ほどあったかと思えます。

この環境ひろばは、テーマに沿って毎回意見交換したり、あとはニュースを毎月出しているというのは、そのことだけでも、環境ひろばの会員の方や事務局が、この環境ひろばをすごく大事にしている、しっかりとやっていくという姿勢だと思えます。市民がもっと多く参加していただけるような形で機運が盛り上がっていくことが大事かなということで、この7月、8月のイベントがあるかなと私なりに個人的に感じました。ここを丁寧に、環境ひろばの参加者の方に理解をしていただけるような形で、今後も進めたいと思います。また、今まで、いろいろなひろばのテーマに沿って、各自が調べて報告をしたり、意見交換していたところを、先ほども言ったように、もっと多くの参加者が集まって共有できたらいいかと思えます。それをもとに、また違う形に進められたらということも感じたりしました。

もう一点お聞きしたいのは、通知を送っているのが21名いらっしゃるということについて、最近あまり参加して下さってない方の御意見をいただいているかどうかをお聞きしたいのと、あと7月、8月の子ども向けにやったイベントに、付添いで参加した大人の方が、9月、10月に参加して下さっているかどうか、その辺はいかがでしょうか。

○坂本環境経営課長 まず、通知は21人に出しております。国分寺市環境ひろば会則という、参加者の中でつくられたものがございまして、退会は本人の意思によるという記載がございますが、この意思が確認できない方が何名いらっしゃるようです。この1年、2年で顔を見たことがある、もしくは参加の形跡がある方は16名ほどとなっております。残りの5名の方については、引き続き通知は出しております

が、反応がないという状況でございます。

もう一つ、御質疑の中でありました、7月、8月のイベント等に付添いで参加した大人等のその後の動向ということでございますが、9月、10月、ここで2回開催しておりますが、その中での参加は確認できていないという状況でございます。

○はせば委員 ありがとうございます。21名のうち、5名の方の確認ができていないところですので、その方に関しても、今後、やり取りをしていただいて、できるだけ参加していただける方法を探っていただきたいと思います。

また、7月、8月に参加した大人の方は、追加の参加はなくても、今後、また関心を示していただいて、参加していただく可能性もあるかと思っておりますので、そこは期待したいと思います。

○寺嶋委員 質疑になるんですけど、今、お話を伺っていて、環境ひろばの会員が21名で、そのうち10名ちょっとが毎度参加していただいております、固定メンバーになるという認識でよろしいでしょうか。

○坂本環境経営課長 委員のお見込みのとおりでございます。

○寺嶋委員 ありがとうございます。ワークショップを実施したところ、そういった会員の方から、この環境ひろばとは、ちょっと違うんじゃないのかという意見が出たという認識でよろしいでしょうか。そこも改めて確認させてください。

○坂本環境経営課長 こちらも、委員のお見込みのとおりでございます。

○寺嶋委員 ありがとうございます。実際、このような形で市として取組を行っているものの、21人の会員で、十数名が固定になっているという状況は、先ほどおっしゃられていたとおり、新しい人たちをなかなか取り込めない循環と申しますか、そういった新しい意見などもなかなか出にくい状況になっているんじゃないのかなと思っております。ここの部分の課題感と、そして取組に関してワークショップを実施したということだと思っておりますけれど、それ以外に、どのように課題感を感じていて、今後、どのようにしていこうと考えているのか、もし、ありましたらお伺いしたいです。

○坂本環境経営課長 お見込みのとおり、参加メンバーが固定化されますと、どうしても話題も同じようなものの繰り返しになってまいります。せっかくの開かれた場ですので、多様な方の参加は促していきたいという考えがございます。とはいえ、来てください、どうぞ意見交換してくださいと言っても、なかなか足が向くものではないと考えておりますので、きっかけづくりは非常に重要ではないかと思っております。

今回、7月、8月、それから6月も東京ガスを招いてというのは、今までとは違った形式での開催でございました。毛色の違う、従前と違うやり方で、新たな参加者を掘り起こすということは重要だと思っております。これが続く続かないという話もあるんですけども、この1回、2回のイベントに参加していただいただけでも、大変な進歩だと考えておりますので、多様な方の参加を促す上では、いろいろな試みをして、いろいろな方の関心を引く。2030年、2050年のゼロカーボン等を目指す上では、地道なこのような積み重ねが重要であるという考えを持っているところでございます。

○寺嶋委員 分かりました。ありがとうございます。最後に意見だけ述べさせていただきます。

おっしゃるとおり、ここの部分に新しい取組をして、そこで新しく参加された方が一定数いたということ自体はすごくよかったんじゃないのかなと私も思います。ですので、どうしてもメンバーが限られてしまっていて、そういった人たちが最適だと思う運営だけになってしまうと、より硬直化が進んでしまう可能性もあるので、会員の方々の意見を無視しろというわけでは全くもってないんですけど、新しい試みは、これからもぜひとも続けていただいて、それこそ、東京ガスなどをお呼びして、そういったもので興

味・関心が湧く人たちも一定数いらっしゃると思うので、そういった試みであったり、また別の試みであったり、より市内に広がりを見せる、本来、こちらが実施している目的に、そういう形の取組をこれからも続けていただければと思います。答弁は求めません。

○対馬委員 この7月、8月に行ったワークショップに参加された方へのアフターケアというものは、どういうことをされているのでしょうか。

○坂本環境経営課長 この7月、8月につきましては、今までとちょっと取組が薄かった部分ではあるんですが、開催後記というのをまとめまして、こちらをホームページにアップしてございます。御参加いただいた方たちに、このように参加していただいた内容をフィードバックする、また、そのほかの方にも伝えていただきたいという意味合いでホームページにアップしてございます。

ぜひ、御覧いただきたいのが、7月の「デザイナーさんとえがこう！みんなに伝わる再エネでんき」という試み、これは、コマ撮りアニメを作製しております、それをホームページにも掲載をしておりますので、自分たちが関わった作品が掲載されていると、それはそれで満足度も高いですし、その方からさらに知り合いに話したくなるような形で横展開で広がっていただければ、こちらとしては大変うれしく、狙いどおりというふうに考えているところでございます。

○対馬委員 ありがとうございます。確かにそうですね。私もそれを見させていただいて、大変いいワークショップだったんだなと思っていました。ただ、課題もあったということで、ここで参加していただいた方々が、ああ、楽しかったなで終わるのではなくて、これからもちょっと関心持って見てみようかなって思えるような仕組みづくりというものも、また、ある意味で大事になってくるんだろうなと思うんです。

なので、ぜひ、7月、8月に行っていたいただければですし、まだ様々な手法はあると思いますので、チェック、アクションをしっかりと行っていただいて、次につなげていければと思いますので、よろしくお願い致します。

○脇村委員 御説明ありがとうございます。不勉強で大変申し訳ないんですけど、一点伺いたいのが、日曜日のこの場に来られない人がいたとします。私も、ぜひ、参加したいんですけど、地域の剣道指導、少年指導とかぶってしまっていて、どうしても参加できないんです。ここには当日来られないんですけど、インターネットで意見を募集するとか、こういう意見があるので、ぜひ、議論してほしいという方がいらっしゃった場合に、その方が声を上げられるような方策があるのか伺いたいんですが、いかがでしょうか。

○坂本環境経営課長 御指摘のネット環境等を駆使した状況というのは、今、そこまで手が回っておらず、なかなか取り組めていないところがございます。一方で、昨年度実施した国分寺市環境シンポジウム等は、講演のほか、ネットでの参加も実際に可能であったという背景もございます。ネットの活用については、今後も課題として、どのような取組ができるのか、模索していきたいとは考えております。

一方で、環境関係に関しましては、確かにネット等でいろいろな情報は手に入るという状況ではありますが、体験、体感するというのが、自分事として身につくという点では、非常に重要だと考えておりますので、考え方によっては、市が取り組む方法というのは、実際に対面で、体験、体感するものに注力していくのも一つの方法ではないかと考えます。

また、これも御指摘としてありました定期的な日曜日開催というのは、どうしても都合が悪いという状況もあるかと思えます。環境ひろばに集まっている会員の会則では第3日曜日という原則が記されていますが、それにこだわらずに行うという試みも考えられると思っております。一つの取組としては、

環境ひろばの会員とともに、11月の国分寺まつりで出店ブースを出すような計画もございますので、こういった形でいろいろな情報収集等に努めてまいりたいと考えてございます。

○脇村委員　ありがとうございます。大変よく分かりました。ぜひ、体験をしてほしいという方針はすごく共感できました。ネットで何とか意見を申し述べる場を御用意いただく可能性も、ぜひ、御検討いただきたいと思います。ありがとうございました。

○高瀬委員　よろしく願いいたします。何点かお伺いしたいと思うんですけども、資料1-3のほうで、全体会と運営委員会を順繰りに月の中でやっていくと。広報も出していくということでは、かなり丁寧な作業をいただいているんだなということは理解いたしました。

運営委員会なんですけども、次第・次回資料作成のところに「ネタ探し・資料作成」とあるんですけど、このネタ探しについては、次は、どういうテーマでやろうかということだと思うんですけど、市のほうから一定程度提供するのか、あるいは、運営委員会の中でいろんな意見を出していただきながら、次とか次のことまで含めて検討されているのか、ここのテーマについて教えていただきたいと思います。

○坂本環境経営課長　フリートークで意見交換をするネタ探しというところでございますが、潤沢なストックがあるという状況ではございません。市の考えとしては、先ほども述べさせていただきましたが、ゼロカーボンを主軸に置きたいという考えなので、ゼロカーボン関係のネタは複数用意してございます。とはいえ、環境ひろばの会員が、それをやっていきたいと考えるかどうかは別問題となりますので、環境ひろば会員から、ほかのテーマで意見交換をしたいという話があれば、そういう方向に集約していくというケースもございます。

○高瀬委員　分かりました。ありがとうございます。その場合に、6月、7月、8月は新たな試みをしたということで、7月、8月についてはイベント体験型ということで、よく理解をいたしました。

6月の東京ガスのところについては、4名という一般の中に東京ガスの方がお二人来ていただいているということで、地域活性化包括連携協定も結んでいるところでは、恐らく、とても意義のある会だったのではないかと思いますし、市と事業者の連携ということでも、とても重要だったのではないかなと思うんですが、こういったところについては、市から情報の提供をされたのか、また、今後については、提携している事業者のやっていることなども、一緒に理解を深めていくことも必要だと思うんですけども、その辺の考え方について、お伺いしたいと思います。

○坂本環境経営課長　委員がおっしゃったとおり、東京ガス株式会社の参加は、地域活性化包括連携協定がきっかけとなってございます。8月のソーラーカーのワークショップのNTTの参加も、やはり地域活性化包括連携協定がきっかけとなっております。どのような形で実施に至ったかといいますと、市のほうから、こういう開けた環境ひろばという場がありますという情報提供をした上で、何ができるかというアイデアを募るような体制をとりまして、こういった形での実施に至ったというものでございます。

市としては、事業者との連携というのは、ゼロカーボンを進めていく上では、関係性を持ち続ける必要があると考えてございますので、これからも事業者との連携は大事にしていきたいと考えてございます。

○高瀬委員　分かりました。そうしますと、地域活性化包括連携協定を結んでいるところに対しては、一律、環境系だけなのか、全てなのか分かりませんが、こういうことをやっているのかというお知らせを、全てに出しているということでしょうか。

○坂本環境経営課長　今年度は、試験的な取組ということもございまして、今回は、ふだんからやり取りがあり、相談しやすかった事業者に御協力をいただいたという流れでございます。これが今回、実績とな

りますので、東京ガス、NTTとはこのような取組をやりましたという実績をもって、ほかの事業者にも話を広げていきたいという考えでございます。

○高瀬委員　今、かなり多くの事業者と協定を結んでいると思います。ただ、結んでからその先がどのように一緒に活動しているのかというのが、なかなか見えにくい部分もあったかと思うんですけども、今後に向けても、今回のことが一つのきっかけとなって、広がっていくといいのかなと思います。それは、環境ひろばだけではなくて、市全体の事業でも言えることかと思えますけれども、まずは、環境について中心になってくださっている環境ひろばでしっかり連携をしていくというのは、一つ大きいのかなと思います。そうはいつても、運営委員会とかの合意が必要かと思えますけれども、進めていただけたらいいのかなと思いました。

それで、先ほどの御説明の中で、次回に7月、8月の意見については報告いただけるということだったと思うんですけども、その報告というのは、やってみてのことなのか、あるいは、先ほどおっしゃってくださった環境ひろばの在り方そもそもについての意見とかになるのか、その辺を確認させてください。

○坂本環境経営課長　考えておりますのが、7月、8月、9月、この内容は議事要約の内容が確定しておりますので、その内容をベースに、フリートークということで、参加者と環境経営課の間でどのようなやり取りがあったのかということ、まとめて御報告したいと考えてございます。

○高瀬委員　分かりました。9月の再エネ電気導入座談会なんていうのも、皆さんどのようなお考えをお持ちなのか、あるいは、どうやって市民の方にも広げていくかということも非常に大事なところだと思いましたので、そこについては次回お願いしたいと思います。

それで、資料1-2のところですけども、下水道などの様々なテーマでこれまでもやっていただいているんですけども、ここについては、それぞれの担当課の職員の方がいらっしゃっていたということなんでしょうか。6月、7月、8月は特に講師の方とかをお呼びしていますけれども、その辺について確認させてください。

○坂本環境経営課長　今、委員から話がありました4月の下水道関係でございますが、これは整備計画等について知りたいという話でございました。下水道課職員を呼ぶという方法もありますが、市のホームページに下水道のストックマネジメントであったりとか、この辺りが公開されておりますので、当日は市のホームページをスクリーンに投影して、その状況をお伝えいたしました。市の下水道に関わらず、流域の下水道の状況も投影したスクリーンで流域下水道のホームページを見る、もしくは東京都の下水道局のホームページを見るという形で意見交換をしております。皆さん一番印象に残ったのは、「油・断・快適！下水道」という油を絶たなきゃいけないと。東京都の下水道局が油を使わないメニューなどを紹介していたりしますので、そういった内容での意見交換をしております。

一番面白いエピソードとしてありましたのが、ラーメンの残ったスープを飲むか飲まないかというのが議論となりまして、下水道のためには飲んだほうがいいんですけども、自身の健康のためには飲まないほうがいいというやり取りもあったという記憶がございます。

○高瀬委員　様々な意見交換がされているんだなと思いますし、そういったエピソードなども、とても大事なことかなと思っています。

今、下水道についてお聞きしたんですけども、ほかについても環境経営課がそこは全て担ってやっているということで、今、理解をいたしましたので、これからも、よろしく願いいたします。

○久保委員　皆さんのいろいろな質疑で、私自身の疑問も総体的には解決をしています。

先ほど、最後にありました質疑において、いろいろな議事の状況を教えていただいた中なんですけれども、今現在、根本的に環境ひろばのテーマ的には、ゼロカーボンを進めたいという市の考えが皆さんに伝わっている状況下の中でもありますので、ある意味、知って得するようなゼロカーボンのいろいろな知識であったり、そういった情報を奮って提供していただくことが、出席者の増加につながるかどうかは分からないですけれども、参加人数の増加にもつながってくるのではないかと考えるところがあります。そういった点では、何か工夫されていることはありますか、教えてください。

- 坂本環境経営課長 省エネが我慢だけではなくて、得につながるという話は、6月の東京ガスの話題提供の中で触れられておりました。こちらの東京ガスとの環境ひろばの開催後記というのが、現時点では間に合っておりません。少し調整する必要がございますので、そういった内容を開催後記等で上げていって、広く共有していきたいと考えてございます。
- 久保委員 ありがとうございます。その点で21名に配付される中で、10名ぐらいの参加というところで、念のため、どういった年代の方が参加されているのか、全体的な年代も含めて教えていただけますでしょうか。
- 坂本環境経営課長 個人情報とはっておりませんので、年齢については、分からないということでございます。
- 久保委員 分かりました。折々、何かアンケート等、またホームページも小まめに見られていらっしゃる状況も先ほどの質疑の中で感じられましたので、いろいろな意味で、細やかに情報提供をしていく中で、環境ひろばの方が、参加しやすい状況が進んでいけばなと思いますので、今後もよろしくお願ひしたいと思います。ここは意見でとどめたいと思います。
- 久保副委員長 中山委員。
- 中山委員 まず、この環境ひろばの委員の皆さんは、御自身で希望されて登録されて、希望されて退会されるということだと思うんですけど、入れ替わりというのはどのくらいあるものなのでしょうか。
- 坂本環境経営課長 近年、数名登録したという流れはございますが、入れ替わりという点では、どういう状況ですと説明できるような状況にございません。
- 中山委員 分かりました。はせべ委員の質疑との関連で、担当課としてはゼロカーボンに主軸を置いて進めたいという思いがあると。ただ、冒頭の御説明でしたかね、環境ひろばの会員の皆さんと担当との考えに開きがあるということもおっしゃられていたと思うんです。これは、要は資料1-2にあるように、環境ひろばの会員の皆さんはいろんなテーマでお話をしたい。ゼロカーボンも含めてだと思っんですけど。ただ、ゼロカーボン主軸というより、いろんなテーマでお話をされたいという考えというふうに理解をしいいのでしょうか。
- 坂本環境経営課長 環境ひろば会員からの要望といいますか、興味を中心は、緑、水、生物、これに興味を持って、それについて意見交換をしたいという傾向がございます。これは過去のテーマでも、一つの例でございますが、今までゼロカーボンを中心に進めてきましたが、11月のテーマは姿見の池についてやりたいという方向に、今、決まっております。この姿見の池というのは、過去何年かの間にも複数回、話題にした内容でございます。実際にそこで活動されている方がいらっしゃいますので、そういった背景があると考えてございます。
- 中山委員 環境ひろばの会員の皆さんが、いろんな視点での環境に関わる話を皆さんとしたいという場所だと思うので、それはそういうことになるんだろうと思うんですけども、ただ、担当としてはゼロカー

ボンを進める上で、これの目標も大きいわけです。市民の取組も併せて盛り上げていかないといけない。そのための市民へのきっかけづくりを、どのようにしていくのか、ここが大きな課題だと思うんです。

ですので、先ほど来あったように、いろんな方に入ってきていただきたい、いろんな人の視点で議論をしていただきたい、そういうふうにお考えなんだと。今、うなずかれていますので。私は、その視点はすごい大事だなと思っているんですけども、それが環境ひろばで十分になるのかというところが、今、ポイントなんじゃないかなと思うんです。

環境ひろばは環境ひろばで大切ですので、この場所はこれでいいと思います。そこからまた、ゼロカーボンに向けた話がもうちょっと膨らんできてもいいですし、でも、そのほかの、今の答弁にありましたように、緑、水、生物、こういったところを中心にテーマでやっていきたいという意見もあって、それを強引にゼロカーボンですよとはできないわけですよ。会員の皆さんの会議ですから、それでいいと思っています。

ですので、私は別の組織が必要だと思います。今回、久しぶりに建設環境委員会の委員になって、今回のこの調査事項もあって、ちょっと過去のものも見返してみたいんですけども、地球温暖化防止行動計画、要はゼロカーボン計画ですね。国分寺市ゼロカーボン行動計画を策定されている際に、日本共産党国分寺市議団からも、ほかの会派からもそうですけど、気候市民会議をつくってほしいという質問が繰り返されているわけです。過去に陳情も出されていたわけなんですけども。その際に、地球温暖化防止行動計画、ゼロカーボン行動計画をつくっている際は、ワークショップですとか、オープンハウスですとか、そういう様々なことを市民参加でやっていきたいということで行動計画を策定されました。

策定した後も、それを実現していくためには、先ほど、冒頭に私が述べたように、いろんな人の意見、考えとか、アイデアもそうですし、市民の行動変容を起こすようなきっかけづくりのアイデアも必要ですし、そういう意味で、いろんな方と一緒に議論していくというのが大事だと思うんです。

そういう意味では、今、そういう場について、担当としては、環境ひろばをそうしたいという思いはあるんだと思うんですけど、なかなかそうはならない中で、とはいっても、ゼロカーボンを達成していくためには、そういう場は、私は必要だと思うんです。その辺、今後の取組の方向性としてのお考えはいかがでしょうか。

○坂本環境経営課長　　計画策定のところから御質疑がございましたので、そこから整理した答弁をさせていただきます。

計画策定は、こうしていくべきという考えがベースになるものと捉えております。目標、目的を明確にしていくというもので、実際に計画策定後のこれをどのように展開していくかというのは、どうしていくかというところが話題の中心になってくると捉えております。おっしゃるとおり、どうやってやっていくかというのは、目的は比較的共有しやすいものと考えているんですが、何をどうしていくかというのは、本当にいろいろな展開が考えられます。熱心に取り組む方もいれば、そこまではできないという方もいらっしゃいますけれども、いろんな方が少しずつ取り組む必要があると考えております。

したがって、開けた場はやはり必要と考えておまして、今回、ゼロカーボンを積極的にやっていきたいという市の考えがあって、ちょっと従前とは違う流れをこの半年間実施してまいりましたので、いろんな考え方が、今後、どうしていくのかという視点も、今、芽生えつつあるような状況と捉えておりますので、方向性については、今、本当にこれは考えていかなければいけないところだと認識してございますので、この調査事項の中で、その経過は御報告させていただきたいと考えてございます。

○中山委員　私は、この環境ひろばでの取組は否定しないですし、これも進めていただきたいという思いで、推進する立場なんです。ただ、一方で、ゼロカーボンを達成していく、2030年の中間目標を達成していくためには、それに特化した取組が必要なんじゃないかということなんです。

気候危機の関係でいうと、年代的には若い方たちですが、非常に関心が強い問題です。その方たちに、環境ひろばで話し合おうと言って、環境ひろばに来ていただけるかという、なかなか、高いハードルがあると思うんです。そういう面では、環境ひろばというところではなくて、気候危機問題に特化した、そういう皆さんが集まれる場所、今でいうと、先ほど言ったような気候市民会議という名前が広く知られているわけで、そこに皆さん来ていただく、こういうものが、今のこの段階になって、必要になってきているのではないかと、強く思うところなんです。私はもちろん、計画策定のときからあったほうがいいと思っていましたけども、ただ、市としての考え方で、今、ここまで来た中で、今後、どうするかというときに、今まさに、必要なんじゃないかなと、私は思うわけなんです。いかがでしょうか。

○坂本環境経営課長　今回、7月、8月の取組で、面白みのあるイベントであれば、興味を持って足を運んでいただけるという手応えは得ているところです。今後、どのように進めていくかについて、最初のきっかけになるのは、興味を持って、実体験も含めて足を運んでもらうところと考えておりますので、そういったものを踏まえて、先々の展開を進めてまいりたいと考えてございます。

○中山委員　面白みのあるイベントで気を引く、関心を引くというのは、非常に大事な点だと思います。一方で、今のこの気候危機に対する危機感というのは、若い世代の方により強い傾向があると思います。面白みで関心を広めるのも必要なんですけど、私は、今のこの状況の中で、その根本的な議論をする、そこに関心がある人も、若い世代では一定いるはずだと思っているんです。幾つかの自治体では、気候市民会議が実施されていますし、そういうところでゼロカーボンに向けて、新たにそうやって集中的に議論してもらえる人たちを集めていく。その中で、さらにそこから関心のあるイベントを計画してもらってもいいですし、環境ひろばの取組も同時並行でいいと、私は思うんです。そういうことを考えていかざるを得ないんじゃないかなと思います。ゼロカーボン行動計画の目標というのは、それぐらい大きな問題だと思っています。

今、この段階での市民会議というところは、私も久しぶりの提起になりますので、今日は、この提案はここで止めますけども、調査事項として続きますし、ゼロカーボン行動計画、市としても取組の中心の大きな一つに置いているわけです。その中で、市民も巻き込まざるを得ない取組、そういったことを考えれば、環境ひろばでの取組も大事ですし、それだけではない取組も考えていくときに来ているんだろうと思いますので、ぜひ、受け止めていただきたいと思います。またの機会に質疑させていただければと思います。

○脇村委員　とても発言するのに勇気が要るんですけど、私、ゼロカーボンを自治体とか国とかといったレベルで推進するのは非常に反対です。市としての方針というのを、例えばの話ですが、今後、ゼロカーボン政策について、市としての推進はやめますということは、どうなればやめることになるのかということ、何を伺うことはできますか。どうなると、市としてはやめますよとなるのかということですが、難しいですか。

○坂本環境経営課長　非常に難しい御質疑でございます。世界的に見ても、今、ゼロカーボンは必須であるという考えはぶれていないという認識をさせていただきます。それに基づいて、これは国だったり、自治体が声を大きくしても動くものでもございませんし、もう本当に、計画自体は、オール国分寺で取り組むも

のとなっておりますので、これは継続して取り組むものと考えてございます。では、目標を達成したらどうなるのかという話もありますが、達成後、それは維持していくものということが、現在の考えでございます。

○脇村委員 ありがとうございます。環境経営課長は、今回だけではなくて、今までの委員会ですとか議会の答弁を、私は新人で、それほど長く拝見しているわけではございませんけども、本当にすごく信頼の置ける純粋な方で、地球の環境のためとか、市民のためにといったことで、仕事をされているんだろうなというのは物すごく伝わってきて、すばらしい方なんだろうなというのを想像するんですけども、私は、もともと農学部で、学問をするために、地球のために何かやりたいということで農学部で勉強したんです。

自分で言うのも何なんですけど、割と勉強が好きなタイプだったので、いろいろ勉強した結果、環境問題はビジネスの側面がとて強いと。それから社会人になってからも、残念ながら、農学とは関係のない仕事をしたんですけども、そういう学問というか、本を読んで勉強したり情報収集をしたりというのは、自分なりにやってまいったつもりでございます。

その結果、私の中では、ゼロカーボンあるいは地球温暖化を考える必要はないと個人的には思っています。オール国分寺で進めるということについて、私はこれから何年議員をやるかどうか分かりませんが、私がここに籍を置く以上は、私としては個人的にはこれからは、反対をさせていただきたいと思っています。

それをやる必要はないんじゃないかという意見を持った市民もいる。私個人だけではなくて、私の支援者も含めての話なんですけど、そこだけ少し御理解いただきたいというのがございます。発言はこれだけにさせていただきますが、何とぞよろしく願いいたします。

○中山委員長 ほかに質疑のある方いらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○中山委員長 それでは、調査事項、環境施策について質疑がないようなので、質疑を終了いたします。

調査事項、環境施策については引き続き調査することとし、継続といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○中山委員長 御異議なしと認め、継続と決しました。



○中山委員長 続きまして、報告事項を受けたいと思います。

報告事項1番 令和7年度国分寺市機構改革検討委員会報告書について、報告をお願いいたします。

○三田まちづくり計画課長 よろしく願いいたします。

それでは、令和7年度国分寺市機構改革検討委員会報告書について御報告させていただきます。資料No.1を御覧ください。

表紙をおめくりいただきまして、1ページをお願いいたします。今年度の検討委員会では、I、検討の前提にありますとおり、3つの事項について検討がなされました。機構改革につきましては、総務委員会の所管となりまして、同委員会にて詳細を御報告するものでございますが、検討事項(1)については、一部、建設環境委員会の所管に関係ある事項も含まれますので、本日、検討結果について御報告させていただくものでございます。2ページを御覧ください。

検討事項(1)の多様化・複雑化する市民ニーズに機動的かつ柔軟に対処することができる組織の在り

方について、本委員会の関係する事項としましては、検討結果欄の最後の段落、「なお」以降の「市民にとって簡潔で伝わりやすい市役所組織を目指すため」の部署名の見直しの箇所となります。

組織案を資料の14ページにお示しさせていただいております。御参照をお願いいたします。こちらの表につきましては、変更のある箇所のみ抜粋してございます。なお、まちづくり部、建設環境部につきましては、名称変更のみで、分掌事務の変更はございません。

説明は以上となります。

○中山委員長 説明が終わりました。質問のある方、挙手にてお願いいたします。

○高瀬委員 御説明ありがとうございます。基本、全体は総務委員会ということではあるんですが、今、御説明いただきましたので、簡単にお聞きしたいと思います。

名称の変更で、内容は変わらないということは理解いたしました。それで建設環境部の環境課について、新しく名前を変えるということかなと思いますけれども、環境対策課から環境課になると、その場合に都市企画部のほうにも入る環境系のところと、市民が見たときに、少し分かりづらいのではないかなと思いました。環境という言葉が大きく使うことで、例えば、建設環境部もそうなんですけども、公園緑地課とか、そういったところも広くは環境というところでは、ここに環境課という名称とするのは、ちょっと分かりづらいのではないかなと思ったんですけども、その辺の検討というのは特にあったのかなかったのか、お伺いしたいと思います。

まちづくり部が都市企画部になり、都市計画関係とか、エネルギー関係のゼロカーボン課というのがあるのも見ているんですけども、ただ市民の方は全体を分かっている、問合せをするわけではないので、環境課があれば、環境に関する様々な問合せが入ってしまうのではないかなと、ちょっと懸念がありましたので、お伺いしているところです。

○島崎建設環境部長 今まで環境対策課というところでしたが、環境の対策だけではなくて、その他のことについても関連して行っていたところでございます。今の質問は、紛らわしいという御意見だと思いますが、こちらについてはしっかりと広報等させていただいて、市民の方に分かるようにさせていただければと考えてございます。

○中山委員長 これはもう決定なんですね。いつも中間報告を受けて、その後に決定というイメージなんですけど、これは報告書となっているので、もう決定したのですか。

○塩野目副市長 過日、この報告については、庁議で報告がありました。庁議メンバーからは特段、意見、要望等もなく、この後については、市長の承認、その後12月の定例会で議案として上程する予定ということとあります。部の再編成がありますので、議案として12月にお出しするということとあります。

○高瀬委員 庁議も通しているということでは理解をいたしました。

ただ、ちょっと資料を見せていただいた中で、環境課というところがすごく大きなイメージを持っています。ほかは割と細かく、課を分かりやすくすることが今回の趣旨だったと思いますので、そこは分かるんですけど、環境課だけが、市民の方にとっても、事業者の方にとっても、すごく広く捉えられがちかなと思いましたので、懸念がありましたので、質問をさせていただいたところです。

このような意見もあったということはお伝えをいただきながら、決定をされるのであれば、その旨は、さっきも説明がありましたけども、周知をしっかりと丁寧にしていただきたいと思います。間違えてというか、こちらにお問合せがあった場合には、丁寧にこちらですと御案内もいただくようにしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○寺嶋委員 簡単に確認させてください。先ほどおっしゃっていただいたとおり、このままのスケジュールでいくと12月の定例会で審議になると思いますけど、これが実際に反映されるのはいつぐらいになるのか確認させてください。

○三田まちづくり計画課長 第4回定例会で国分寺市組織条例の一部改正に係る議案を上程した後、令和8年4月1日の施行を予定しているところでございます。

○中山委員長 可決されればということですね。

○三田まちづくり計画課長 はい。

○中山委員長 ほかに質問のある方。

(「なし」と発言する者あり)

○中山委員長 では、以上で報告事項1番を終わります。



○中山委員長 次に、報告事項2番 **その他**です。

行政側からはありませんが、委員の皆様もなしでよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○中山委員長 以上で、報告事項を終わります。

この後、陳情審査になりますので、説明員の皆さんは以上となります。お疲れさまでした。

ここで、委員会を暫時休憩いたします。

午前10時29分休憩

午前11時11分再開

○中山委員長 それでは、委員会を再開いたします。



○中山委員長 **陳情第7-1号 「有機フッ素化合物（PFAS）の汚染原因究明と対策を求める意見書」を国へ提出することを求める陳情**を議題といたします。

初めに、調査担当から説明を求めます。

○鈴木議会事務局次長 それでは、陳情第7-1号、「有機フッ素化合物（PFAS）の汚染原因究明と対策を求める意見書」を国へ提出することを求める陳情につきまして、調査報告書の御説明をさせていただきます。資料を御用意してございます。目次を1枚めくっていただいて、調査報告書のところを御覧いただければと思います。今回、調査項目は2点ございます。

まず、1点目としましては、東京都内各市議会（国分寺市議会を除く）における、国に対する有機フッ素化合物（PFAS）に係る意見書の提出状況についてとなります。こちらにつきましては、立川市、府中市、調布市、小金井市、小平市、狛江市、西東京市の7市が、国に対して意見書を提出しているところを確認してございます。

なお、小金井市などのように、複数の意見書を提出している団体もございます。各意見書の内容につきましては、別紙1としてまとめてございますので、お読み取りをお願いできればと思います。

続いて、もう一つの調査項目、三多摩上下水及び道路建設促進協議会が国へ提出した有機フッ素化合物（PFAS）に係る要望書についてとなります。こちらにつきましては、総務大臣、財務大臣及び環境大臣宛てに要望書を提出してございます。各要望事項につきましては、同じく別紙2としてまとめてござい

ますので、お読み取りをお願いできればと思います。

調査報告の説明は以上でございます。

- 中山委員長 担当からの説明が終わりました。では、御意見等ある方は、挙手にてお願いいたします。
- 対馬委員 御調査いただきましてありがとうございます。こちらを踏まえた上で、もう一度、陳情項目について、会派で検討させていただきたいと思いますので、持ち帰りをさせていただきたいと思います。
- 中山委員長 ただいま対馬委員より陳情の継続の申出がありましたけども、ほかに御意見ありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

- 中山委員長 それでは、陳情第7-1号について継続審査とすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」と発言する者あり)

- 中山委員長 では、御異議なしと認め、本件は継続審査とすることに決しました。



- 中山委員長 続きまして、**陳情第7-2号 ぶんバスのさらなる発展を求める陳情**を議題といたします。調査担当から説明を求めます。

- 鈴木議会事務局次長 では、続きまして、陳情第7-2号、ぶんバスのさらなる発展を求める陳情につきまして、調査報告書の御説明をさせていただきます。今回、調査報告は2点ございます。

まず、1点目としましては、立川市及び武蔵野市におけるコミュニティバス事業に係る市民参加のワークショップの実施状況についてとなります。

立川市におきましては、コミュニティバス事業に限定せず、地域公共交通計画の策定に係る調査の一環としまして期間限定で公共交通ワークショップを開催し、市内を5つのエリアに分けて、各エリア2回、計10回開催というところで、合計110名の市民の参加がございました。期間限定での開催であり、今後の市民協働の手法は未定という形となっております。

ワークショップの概要につきましては、添付の開催レポートにてお読み取りをお願いできればと思います。

また、武蔵野市につきましては、調査項目に該当するようなワークショップは実施をしていないという回答となっております。

続きまして、資料の最終ページを御覧いただければと思います。2つ目の調査報告、ぶんバスの運賃改定後の増収分の取扱いに関する方針についてとなります。こちらは、担当課より、ぶんバスの運賃改定は、運転士を確保し、運行を継続することを目的の一つとしており、増収分については、ぶんバス運行事業者に再分配していく考えとの報告を得てございます。

調査報告書の説明は以上でございます。

- 中山委員長 説明が終わりました。御意見等がある方は、挙手にてお願いいたします。
- はせべ委員 調査内容について、詳細に調査いただきましてありがとうございます。2点報告をいただいたというところ、確認をさせていただきました。また、今回の陳情事項に関して、7項目ということで、多岐にわたる内容がこの中には含まれていると考えるところでありますので、一度、会派に持ち帰って、検討させていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。
- 中山委員長 ほかに御意見のある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○中山委員長　それでは、はせば委員より陳情の継続の申出がございましたので、陳情第7－2号について継続審査とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○中山委員長　御異議なしと認め、本件は継続審査とすることに決しました。

以上で建設環境委員会を終わります。お疲れさまでした。

午前11時17分閉会